

# クビレツタ 養 殖 試 験

宮古地区普及室 仲 間 勲

クビレツタ（海ぶどう）、宮古島には、古くから市販され、珍重される、緑藻類である。生産量は、年約10トンである。最近、需要が増えそれに伴い、乱獲の傾向が強いこともあり増養殖技術の開発は、急務である。本年度、県水産試験と協力して養殖試験を行なったので、その概要を報告する。

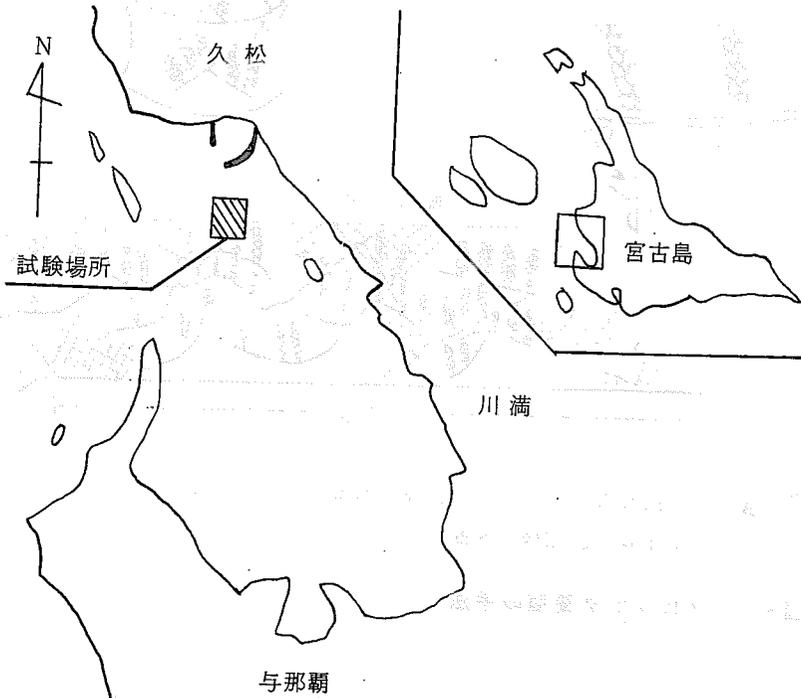


図-1 試験場所—宮古島与那覇湾

1. 試験場所、宮古島与那覇湾（図-1）
2. 試験期間、昭和55年2月18日～7月30日
3. 試験方法、図-2のとおりである。深みは、アンドンカゴを用い、浅いところは、地植方式を用いるとよいようである。

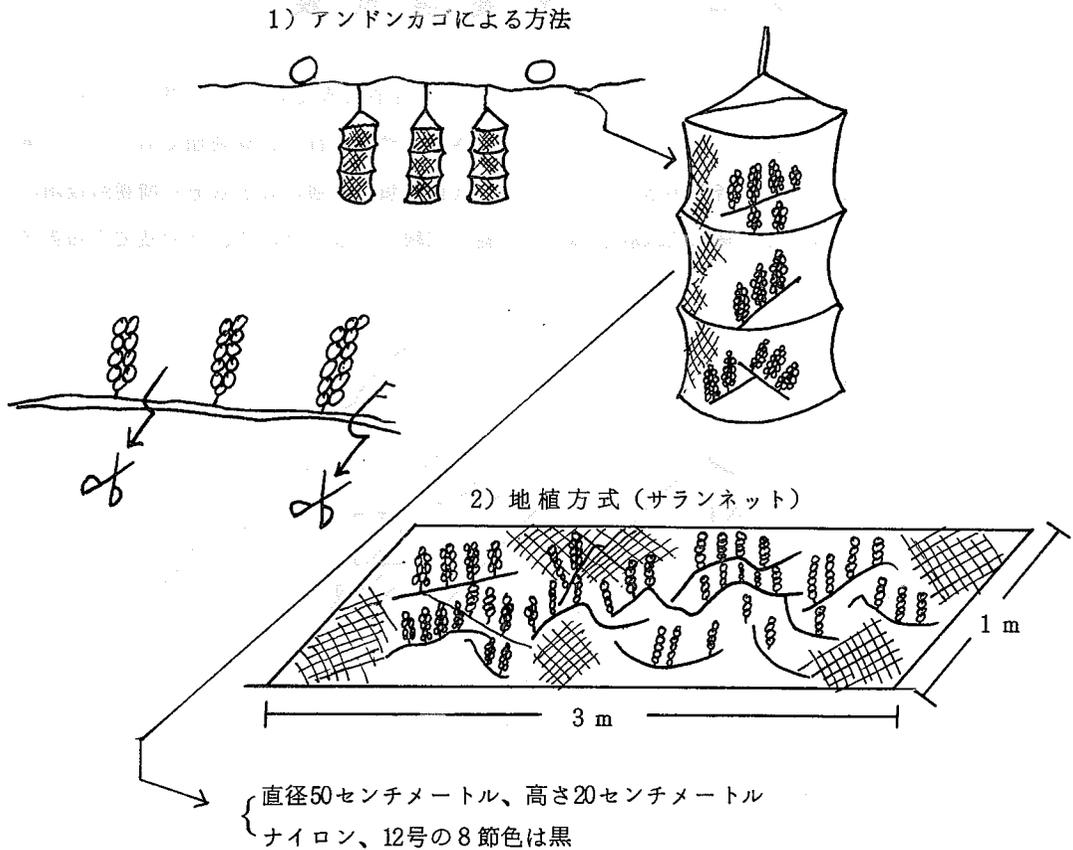
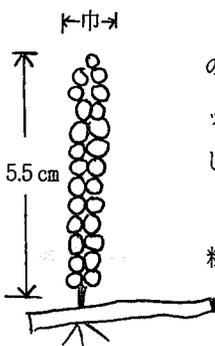


図-2 クビレツタ養殖の手法

※方 法



クビレツタは、15~20cmに茎を切断しても充分に発根することがわかったので、次図のように、ハサミやナイフ等で切断したものを、カゴやサラネットにくくり付ける。切断作業は船上で行なってもよいができるだけ風どうしのよい、日陰で行なうようにする。

巾は、約1cmぐらいあり、長さは図で示した、葉長が5.5cmで球が約27.6粒ぐらい、球の直径は1.8~2mmである。

4. 試験及び調査結果

クビレツタの季節的消長を図-3に示した。

収穫期は、水温が約21℃以上になる、4月頃から10月頃である。

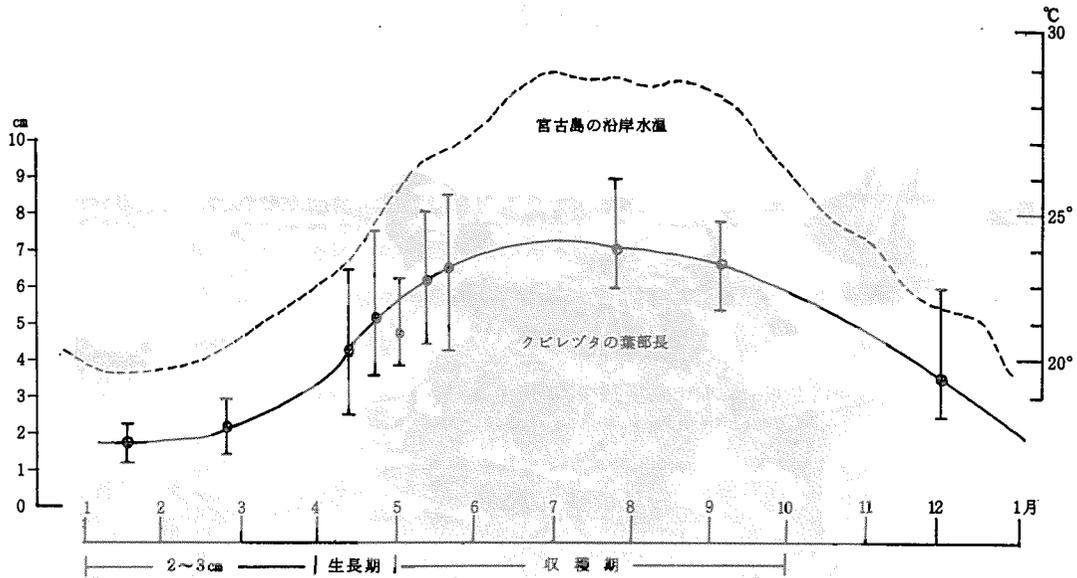


図-3 クビレツタ<海ぶどう>の季節的消長 <昭和54年度宮古西部地報告書>

## 5. 結 び

アンドンカゴの場合、1段あたり、約4kgが収穫される見通しが得られた。

地植式の場合も養殖試験は成功しているが、今後漁場の耕うん造成等により広域の生産量も望める。まだ測定はなされていないので省略するが見通しは、アンドンカゴ以上に明るい。

## 参 考 文 献

当真 武、仲間 勲（1980年）、昭和54年度宮古西部地区漁業資源（経済立地）調査報告書オキナワモズク、クビレツタ、沖縄県水産試験場

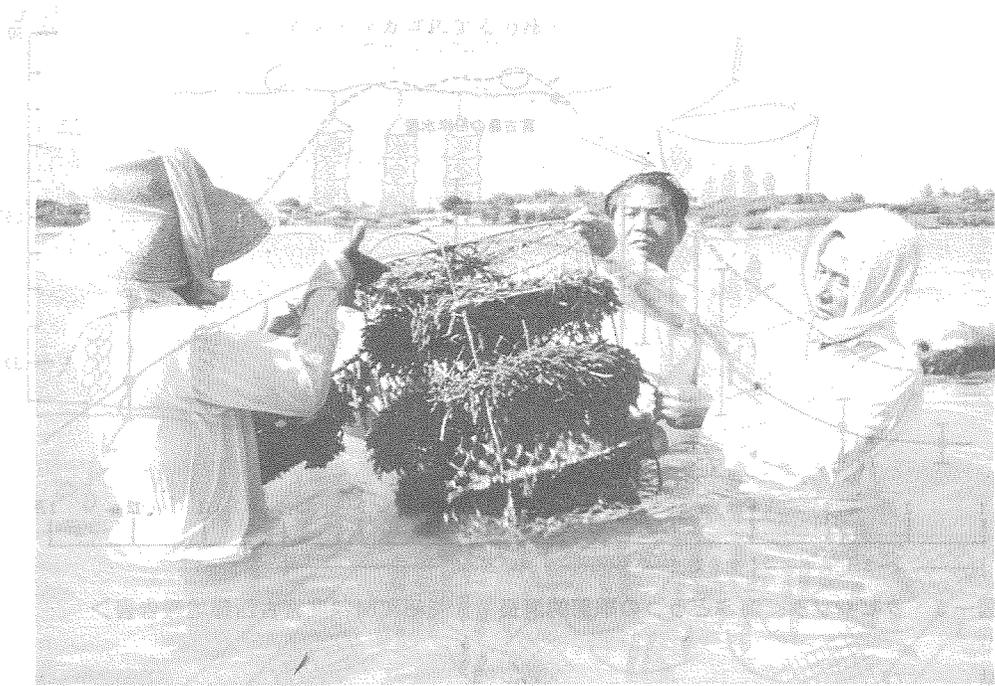


図-4 養殖試験結果 <昭和54年宮古西部地区報告書>



図-5 試験結果の拡大、クビレツタ